

これを好機として配下・一族を動員して松永征討に加わった。

順慶は古参の家臣の一人を松永に任せさせていたので、その者に内通するよう密かに頼んだところ、承知したとのことであった。幸いなことに、大坂の本願寺に加勢を依頼するにあたり、松永はこの者を本願寺への使者に任命した。彼は順慶にその旨を伝えた。順慶は二百騎ほどの兵を大坂からの援軍を装って出立させ、河内国かわちの平野ひらのまで夜のうちに派兵しておいた。松永の使者（順慶の古参の家臣）は、本願寺からの帰還の際、平野に待機させておいた軍勢を従えて信貴山城内へ夜のうちに潜入させた。そうして、信忠の軍勢が夜半過ぎから総攻撃を仕掛け、信貴山城に密かに配置した部隊も城に火をつけ、裏切った。その結果、松永父子（久秀・久通）は天守閣へ上り切腹した。子息松永久通は南都の多聞城へ落ち延びて自害したとも、また父母と一緒に自害したともいわれている。

これ以後、大和国の国侍はことごとく筒井順慶に臣従し、順慶の国内統一が進んだ。順慶は天正十一年（一五八三）五月に病死した。その後筒井家は伊賀国いがへの転封ぼう（領地替え）を豊臣秀吉より命じられ、上野城に居城した。関ヶ原の戦の三年後、中坊秀祐なかのぼうという筒井家の重臣が、幕府に筒井定次の不行跡を訴えたところ、定次は多くの悪事を働いた咎で切腹させられ、伊賀の所領を没収された。

筒井氏の配下の武将は五十騎であった。